

三井住友F&L、蓄電所取得

ウエストHDから2カ所、11月にも稼働

三井住友ファイナンス&リース（F&L）は太陽光発電大手のウエストホールディングス（HD）が開発した大型蓄電所2カ所を取得した。11月までにそれぞれ稼働する。

送電線に蓄電池を直接つなぎ電気を充放電する。太陽光など発電量が不安定な再生可能エネルギーの電力調整弁としての高まる需要を取り込む。

ウエストHDが開発した総蓄電容量2万キロワットの蓄電所2カ所を買い取った。三井住友F&L傘下で再生エネ事業を手掛けるSMFLみらいパート

ナイズ（東京・千代田）が山口県と熊本県で動かす。電気の売買の仲介役である「アグリゲーター」は東芝子会社の東芝エネ

ルギーシステムズが担う。蓄電所は一日のうち電気の市場価格が安いときは蓄電池にためて、高い

ときに放電して収益を確保する。三井住友F&Lは蓄電所の電力を市場で売って、約20年間で投資を回収し、利益を確保する。

SMFLみらいパートナイズはこれまでウエストHDが開発した太陽光発電所を買い取り運営

してきた。今後は蓄電池事業も強化し、2030年度までに大型蓄電所に2000億円を投資する。

SMFLみらいパートナイズはこれまでウエストHDが開発した太陽光発電所を買い取り運営